

日本鐵鋼協會記事

◎編輯會

大正十二年二月十四日(水曜日)午後四時半より本會事務所にて編輯會を開き會誌第九年第三號の原稿を選定せり。

當日出席者は 室井嘉治馬君、川上義弘君、行方畝三郎君、田中清治君、山本貞次郎君、鹽澤正一君等なり。

◎理事會

大正十二年三月七日(水曜日)午後五時より本會事務所にて理事會を開き左の事項を協議せり。

一、入退會者に關する件

(承認)

一、總會に關する件

(可決)

一、支關の石段修理の件

(可決)

一、農商務商工務局照會の世界動力調査會に關する件

一、其他會務に關する件

當日出席者は、俄國一君、香村小録君、鹽田泰介君、河村驍君等なり。

◎編輯會

大正十二年三月七日午後五時より本會事務所にて編輯會を開き、會誌第九年第四號の原稿を選定せり。

當日出席者は 川上義弘君、室井嘉治馬君、杉村伊兵衛君、行方畝三郎君、山本貞次郎君、田中清治君等なり。

◎編輯會

大正十二年四月十一日(水曜日)午後五時より本會事務所にて

於て編輯會を開き會誌第九年第五號の原稿を選定せり。
當日出席者は 俄國一君、河村驍君、室井嘉治馬君、行方畝三郎君、杉村伊兵衛君、山本貞次郎君、川上義弘君、田中清治君等なり。

◎轉居

前號報告後轉居者の新住所左の如し。

- 四谷區右京町三九
- 大阪市西區島屋町住友製鋼所
- 兵庫縣西宮町字安井二八四一ノ一
- 市外西大久保二〇
- 府下大森町日本特殊鋼合資會社
- 市外西巢鴨町二〇六八
- 神戸市上筒井通七ノ二六、奥田方
- 市外灘谷町中灘谷五五一
- 赤坂區青山高樹町十二ノ七
- 相州浦賀町浦賀船渠株式會社
- 廣島市段原町東浦五〇四
- 小倉市堺町九七
- 小倉市堺町六丁目
- 京都府相樂郡柏田村藤田方
- 八幡市製鐵所研究所

准員より正員に變更者

新井清二郎君

鈴木正治郎君

本會正會員工學博士井口在屋君は大正十二年三月二十
五日逝去せらる誠哀悼の至りなり。

◎製鐵業用語選定

本年二月號廣告欄に掲載したる製鐵業用語選定の結果左の如し、之に關して御意見あらば御通知を乞ふ。

(3210)

英 語	會 員 より 回 答 語	決 定 術 語	摘	要
Crucible steel. Bessemer steel. Siemens Martin steel. Open hearth steel. Electric steel.	坩堝鋼 轉爐鋼、ベッセマー鋼、ペッセマー鋼 平爐鋼、シーメンス鋼、シーメンス・マルチン鋼 平爐鋼、シーメンス鋼 電氣鋼	坩堝鋼 轉爐鋼 平爐鋼 平爐鋼 電氣鋼		
Steel ingot. Bloom. Billet. Gray pig iron. White pig iron.	鋼塊、鋼片 鋼片、大鋼片、ブルーム、鋼材、鐵塊 小鋼片、鋼片、ビレット、鋼小片 鼠銑、灰銑、鼠銑鐵 白銑、白銑鐵	鋼塊 鋼片 小鋼片 鼠銑 白銑		
Mottled pig iron. Hematite. Magnetite. Limonite. Siderite.	斑銑、斑銑鐵 赤鐵礦 磁鐵礦 褐鐵礦 菱鐵礦	斑銑 赤鐵礦 磁鐵礦 褐鐵礦 菱鐵礦		
Bog iron ore. Slag Cinder. Roasting.	沼鐵礦 鑛滓 鑛滓、鑛滓 焙燒、焙燒法	沼鐵礦 鑛滓 鑛滓 焙燒	沼鐵礦 鑛滓 鑛滓 焙燒	Blast furnace slag. 鐵滓 Open-hearth slag. 鐵滓 Converter slag. 鐵滓 Reheating furnace slag. 鐵滓 Cupola slag. 鐵滓
Briqueting. Charging apparatus. Puddle process.	團鑛、團鑛法 装入裝置 攪鍊法、パツポル法	團鑛 装入裝置 攪鍊法		鐵石のみに限らざればなり

Crucible process. Hoist. Tapping.	坩堝法、坩堝製鋼法 捲上機、捲揚機 湯出	
Crucible furnace. Bessemer converter. Baby Bessemer converter.	坩堝爐 轉爐、ベッセマー爐 小形轉爐、小形ベッセマー爐	
	坩堝法 捲上機 湯出	簡略主義による
	坩堝爐 轉爐 小型轉爐………	小形轉爐は普通の轉爐の小なる者を意味する條あり、型式の異なる意味より小形轉爐とす

◎世界動力検査會に就て

大正十二年二月二十六日農商務省より左記の通り照會ありたり。

大正十一年十月十七日

外務大臣伯爵内田康哉殿
在倫敦 商務官 松山晋二郎
“World Power Conference”に關する件

今回當地に於て British Electrical & Allied Manufacturers Association の
主唱により英國に於ける同種の組織と提携して第壹回 “World Power Conference” 開催の議あり右コンフェレンスは世界に於ける各種動力に關して工業
的及學術的に如何に處理せられつつあるかを相互に調査研究するを以て目的と
せるものにして其の第壹回を一九二四年倫敦市に於て開催せらるる大英帝國博
覽會(住信第十一號參照)内に開き且つ同コンフェレンスの存在を永久的のもの
とする爲め英國に本部を置き廣く世界各地に其の支部を設置したき計畫にて英
國政府も各省より専門家を出席せしむるを承諾致居候就ては今般世界に於け
る各種動力に關する各團體に對して其の參加出席を勧誘すべく各國政府を通じ
て申込みつゝ有之吾國に對して其の參加勧誘方依頼有之候要するに主唱者及關
係者は何れも英國内の有力者に有之且つ全く私設のものにして會議の一般的費
用と主唱者の負擔其他は一切自辨とせる一種の學術及實際上の意見交換會の如
きものに有之候依て此方面に於ける學者又は専門的實業家は英國に於ける斯道
の有力者及他國の來會者と會見する機會を得所謂私交的に利益する所不尠と被
存候間貴官に於て其の向へ勧誘方可然御取計相成度往復書類相添へ此段願上候
尙出席者決定次第御一報煩はし度存候敬具

◎圖書寄贈

大正十二年二月二十二日河村曉氏より左記の圖書四部寄贈せられたり。

Transactions American Institute of Mining Engineers. Vol. XLIII, XL IV,
及び同 Index vol. I—XXXV, XXXVI—XL.

◎入會者

前記役員會に於て入會を承認せられたる會員左の如し。

府下大森町日本特殊鋼合資會社	正員	松本 詮吉
廣島縣佐伯郡大竹町山陽製鐵所支配人	同	鮫島 宗平
大阪市西區薩摩堀大阪鐵管商會專務取締役	同	小泉 澄
本郷區駒込込坂町三二七、農商務省書記官	同	福田 庸雄
名古屋市南區熱田大同電氣製鐵所	同	村上 竹藏
府下大森町日本特殊鋼合資會社	同	石原 善雄
大阪市北區玉江町二ノ四ノ一、日通商株式會社支配人	同	
小倉市許斐町淺野小倉製鐵所	同	阿部 政次郎
府下南葛飾郡小岩村小岩沖	准員	永末 巖
朝鮮兼二浦三菱兼二浦製鐵所技師	同	牧山 貴雄
南滿洲鞍山製鐵所	同	石川 英太郎
	同	松尾 寛

◎第八回通常總會記事

大正十二年三月三十一日(土曜日)午後三時より本會事務所第三階に於て第八回通常總會を開く、當日出席者は正會員五十八名、准會員八名にして正會員の氏名左の如し。

出席者(出席順)

俄國	一	香村小録	今泉嘉一郎
鹽田泰介	河村 曉	加茂正雄	
堤 正義	磯村豊太郎	日向庄作	
野田鶴雄	原田鎮治	江藤捨三	
本多光太郎	大塚榮吉	工藤治人	
桂 辨三	水橋義之助	中大路氏道	
島岡亮太郎	松下長久	加藤 榮	
吉川雄輔	濱 田 彪	田中清治	
石田四郎	室井嘉治馬	野田正一	
内 藤 游	松本詮吉	渡邊讓吉	
小長井 潔	守谷吾平	秋山正八	
宮口竹雄	野村宅藏	河原田稻夫	
松川義造	藤本磐雄	福井國太郎	
黒部義夫	大矢喜兵	東洋製鐵株式會社	
行方畝三郎	相原鍊次郎	遠藤隆太	
毛利要次郎	石原善雄	尾崎眞一	
中島辰一	松山寛慈	寒川恒貞	
小林子之輔	三島徳七	坪田修吉	
石原米太郎	梅津七藏	小澤重明	
川上義弘	以 上		

外に委任投票人員四十九名を加へ合計百七名なり。

○開會の辭 會長 俄國一君

それでは是から第八回通常總會を開きます、先づ理事及び評議員の半數改選のこととあります、豫て投票を御提出になつて居るお方も段々あります、尙ほ御出席の方で御提出になりますのは此際御願ひ致します、暫く時間が掛りますが、日向庄君と行方畝三郎君に御立會を願ひまして開票することに致したいと思ひます。

○會長(俄國一君)會務報告並に會計報告は書記長の大矢喜兵君に朗讀を御願ひ致します。

大正十一年度會務報告(自大正十一年三月一日至大正十二年二月廿八日)

一、集會

總會	一	同
評議員會	四	同
理事會	十	同
編輯委員會	十	同
講演會	五	同

二、會員異動

一、入會者	三十三名
正會員	七十二名
准會員	七十五名
合計	一百四十七名
一、退會者	四十九名
正會員	四十七名
准會員	四十七名

合計 九十六名

一、死 亡 者

正會員 高田信次郎君 早川千吉郎君

田中不二君 寺野精一君

准會員 織部貢君 高橋小司郎君

以上六名ヲ喪ヒタルハ痛惜ニ堪ヘサル所ナリ

三、會 員 總 數 (大正十二年三月五日調)

贊助會 員 九 名

正 會 員 八百四十九名

准 會 員 五百五十名

合 計 一千四百八名

四、役 員 異 動

一、會長 俄國一君ハ曩ニ歐米ニ出張中ナリシカ大正十一年

七月二十四日歸朝セラレタリ

一、理事 今泉嘉一郎君ハ維納ニ於ケル萬國議會同盟會議ニ

我來議院代表者トシテ參列ノ爲メ大正十一年六月廿五日

出發シ序ニ歐米製鐵業ヲ視察シテ同年十一月三日歸朝セ

ラレタリ

一、編輯委員 井上克己君ハ佛國へ留學ノ爲メ辭任ニ付更ニ

役員會ニ於テ田中清治君、山本貞次郎君、鹽澤正一君ヲ

編輯委員ニ囑托セリ

五、會 誌 ノ 發 行

本會々誌「鐵ト鋼」第八年第三號ヨリ第九年第二號迄ヲ每

月一回宛發行セリ

此内第九年第一號ハ印度號トシテ特別大冊子ヲ發行セリ

六、製鐵業用語選定ノ件

大正十一年十二月一日評議員會ニ於テ製鐵業用語選定ノ爲メ編輯委員豫選ノ術語ヲ毎月會誌ニ掲載シテ會員ノ意見ヲ求ムルコトニ決議セリ

七、調 査 事 項

一、「メートル」法實施ニ關スル件

東京府廳照會ノ「メートル」法實施ニ關スル件ニ就テハ

大正十一年九月二十日評議員會ヲ開催シテ審議ノ上右ハ

適當ノモノト認ムル旨回答セリ

一、金屬材料抗張試驗片案ニ關スル件

工業品規格統一調査會ヨリ照會ノ金屬材料抗張試驗片

案ニ關シテハ大正十一年十月十八日役員會ヲ開催シテ審

議ノ上異議無キ旨回答セリ

一、鍛鋼品鑄鋼品並ニ鍊鐵ノ規格統一案ノ件

工業品規格統一調査會ヨリ照會ノ鍛鋼品鑄鋼品並ニ鍊

鐵ノ規格統一案ニ關シテハ大正十一年十二月一日評議

員會ヲ開催シテ審議ノ上孰レモ適當ト認ムル旨回答セリ

一、鑄鐵用銑鐵規格統一案ノ件

工業品規格統一調査會ヨリ照會ノ鑄鐵用銑鐵規格統一

案ニ關シテハ大正十二年二月九日評議員會ヲ開催シテ審

議ノ上修正意見ヲ作製シテ同年二月二十日當局ニ提出セ

リ

一、製鐵業合同整理ニ關スル建議書ノ件

大正十一年十二月一日評議員會ニ於テ審議ノ上「製鐵

業合同整理ニ關スル建議書」ヲ作製シ同年十二月十六日

内閣總理大臣、大藏大臣、陸軍大臣、海軍大臣、農商務

大臣並ニ關係諸方面へ提出セリ

八、講演會

大正十一年度本會事務所ニ於ケル講演會左ノ如シ

一、大正十一年三月廿五日

鐵力製造ト能率増進

日東製鋼株式會社々長 大塚榮吉君

華盛頓會議ニ於ケル海軍問題ノ經緯

海軍造船少佐 田路坦君

一、大正十一年九月廿七日

歐米製鐵事業視察談

會長工學博士 俄國一君

一、大正十一年十一月八日

印度製鐵視察談

工學士 杉山隸次君

一、大正十一年十二月六日

戰後ノ歐洲製鐵事業視察談

工學博士 今泉嘉一郎君

一、大正十二年二月十四日

歐洲ニ於ケル熱經濟ニ關スル施設

工學博士 大島義清君

九、圖書寄贈

電氣鋼ノ特徵ニ就テ 工學士 小林子之輔君

十、家屋修繕ノ件

本年度ニ於テ寄贈ヲ受ケタル圖書部數ハ百八拾四部ナリ

大正十一年四月廿六日震災ノ爲メ本會建物ニ大破損ヲ生

セリ依テ之ヲ修繕スルコト、シ同年六月二日起工シ同年九

月十九日竣工ス此ノ修繕費金貳千參百六拾八圓五拾八錢ハ

建物維持資金ヨリ支出シ同年九月二十日評議員會ノ承認ヲ

經タリ

右及報告候也

大正十二年三月三十一日

日本鐵鋼協會々長 理事 俄國

大正十一年收支決算報告(自大正十一年三月一日至大正十二年三月廿八日)

正會員會費

准會員會費

入會金

廣告料

利子

會費補助寄附

雜收

入

小計

前年度繰越金

工學會々費

合 計

差引殘高(次年度繰越)

此內譯

銀行預金

振替貯金

會誌發行擔保

振替貯金基本

約東郵便擔保

現金

合計

六、七三三、六三

三、〇一九、七六

一、一三三、〇〇

一、五〇四、四七

一、四七一、三六

九〇〇、〇〇

三〇五、九九

一、二、三六四、六八

一六、四一二、八九

二、三、七二〇、七〇

二〇〇、〇〇

一、五、一八〇、八〇

二、四、五〇二、七九

二、三、四五〇、五七

一、〇〇〇、七九

九〇七、〇〇

一〇〇、〇〇

二〇〇、〇〇

一、四、四三

二、四、五〇二、七九

外ニ會費未收入

大正十二年度豫算 (自大正十二年三月一日至大正十三年三月廿九日)

收入之部

正會員會費	六、七五〇、〇〇
准會員會費	三、二四〇、〇〇
入會金	八〇、〇〇
廣告料	一、二〇〇、〇〇
利子	一、三〇〇、〇〇
雜收入	二四〇、〇〇
贊助會員寄附	二〇〇、〇〇
合計	一三、〇一〇、〇〇

支出之部

印刷費	六、〇〇〇、〇〇
原稿料	二〇〇、〇〇
約束郵便料	一一〇、〇〇
事務費	一、六〇〇、〇〇
火災保險料	二五七、九一
報酬及手当	三、四二〇、〇〇
地代	二六四、六〇
會合費	三六〇、〇〇
諸税金	三九、二八
什器	五〇、〇〇
圖書費	一五〇、〇〇
修繕費	二〇〇、〇〇
工學會々費	二〇〇、〇〇
豫備費	一四八、二一

合計

一三、〇一〇、〇〇

財産目録

家屋及土藏	三三、〇〇〇、〇〇
什器	二、五九五、〇〇
圖書	二、〇二一、〇九
建物維持資金	三、九九〇、四一
銀行預金	三、二五〇、五七
振替貯金	一、一〇〇、七九
會誌發行擔保	九〇七、〇〇
振替貯金基本	一〇〇、〇〇
約束郵便擔保	二〇、〇〇
現金	一四、四三
合計	六二、一〇九、二九

右及報告候也

大正十二年三月三十一日

日本鐵鋼協會々長 理事 倭 國 一

○會長(倭國一君) 唯今御報告致しました會務報告並に會計報告に付きまして御質疑の方が御有りになりますならば御答へ致します、別に御有りになりませぬと云ふにとてでありますから、御承認を戴きましたものと致します。

○會長(倭國一君) 理事及び評議員半数改選の結果を申し上げます。

理事及び評議員の選舉は投票人員百二十六名で左の通り選舉せられました、其氏名は左の通りであります。

理事

倭 國一君 今泉嘉一郎君 香村 小録君

野呂 景義君 鹽田 泰介君

評議員

井上禧之助君 井上匡四郎君

服部 漸君 大河内正敏君

種子田右八郎君 堤 正義君

中島久萬吉君 野田 鶴雄君

松浦 善助君 江藤 捨三君

本多光太郎君(以下新任) 向井 哲吉君

三好 重道君 未兼 要君

○會長(俄國一君) 是で通常總會を閉ぢます。

次に臨時總會を開きまして定款改正のことを御相談申上げ度いと思ひます。

定款改正に付きましては豫て皆様の方に改正案を差上げて置きましたのでございます、朗讀いたしますと云ふと、定款の附則に第四十四條と致しまして一項設け度いのでございす、それは

大正十二年三月三十一日の總會に於て選舉する理事の任期を一箇年とす。

理由は

從來會長及理事の選舉期一致せざるを以て其改選毎に不便少からず依て右附則を設け之を一致せしめんとするにあり。

全く此通りて今まで不便を感じて居りましたのを本日改選になりまする理事の任期は來年で改選と云ふことにしますると云ふと、會長任期と合ひますると云ふことに御願ひした次第でございます、御意見をどうか御提出を願ひます。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○會長(俄國一君) 別に御異議が無いやうでありますから、此通りに改正をすと云ふことに定めます、左様御承知を願ひます、是で臨時總會を閉ぢまして、講演會の方に移りますちよつと圖面等の準備がありますから暫く休憩致します。(午後三時三十五分)

次に左の講演ありたり。(午後三時四十分)

本邦製鐵業の趨勢 會長 工學博士 俄國一君
世界に於ける高級鋼材製造方法の趨勢

海軍造兵少將 工學博士 野田 鶴雄君

暫時休憩の上(千時午後七時五十分)本會事務所第二階に於て懇親會を催す出席者は左の諸氏(二十八名)なり。

俄國 一 香村 小 錄 今泉嘉一郎

鹽田 泰 介 河 村 驍 加 茂 正 雄

日向 庄 作 野 田 鶴 雄 原 田 鎮 治

江 藤 捨 三 本 多 光 太 郎 大 塚 榮 吉

工 藤 治 人 桂 辨 三 島 岡 亮 太 郎

加 藤 榮 田 中 清 治 渡 邊 讓 吉

行 方 畝 三 郎 大 矢 喜 兵 濱 田 彪

佐々木 彦太郎 中 村 幸 雄 藤 本 磐 雄

黒 部 義 夫 小 林 子 之 輔 三 德 七

寒 川 恒 貞

宴會の半に於て俵會長の挨拶あり、續て今泉君、鹽田君、野田君、香村君等の卓上五分演説ありて一同歡を盡くし午後九時二十分散會せり。(演説速記は次號に掲載す) (以上)